

巻頭言

脆弱な現代社会

校長 根本 實

私たちは巨大で複雑なネットワークの中で生きている。まず道路と電力、水道、ガスのネットワーク。このライフラインのうちどれか一つがとぎれただけで生活は混乱してしまう。そして、電話やコンピューターネットワーク。ライフラインはコンピューターネットワークで制御されているので、このネットワークが壊れればすべてが麻痺してしまう。

今年の8月14日、ニューヨークは大停電に見舞われた。米国では2001年1月にカリフォルニア大停電が起こっていたので、初めはまたかと感じただけだが、その停電が広域におよび、となりのカナダまで巻き込んでいたとなるとただごとではない。原因はまだ完全に解明されていないようだが、どうも最近の電力は、ほしがっている地域に、あちこちの発電所から、決められたルートではなく最短距離を通るようにコンピューターで自動的に制御され送られているらしい。だから一カ所でルートが壊れると、いろいろな発電所からの電力が瞬時に他のルートにまわりはじめ、それが一つのルートに集中するとそこが遮断され・・・と広がっていったらしい。こんなに複雑で脆弱な送電システムになっているとは知らなかった。ところで、わが国の電力は不足しているがシステムは大丈夫らしい。

そして今回のMSブラスター騒動。8月11日から攻撃が始まり、19日にはソービックワームが放たれた。世界中でどれだけのパソコンが感染してダウンしたかまだ集計されていないが、わが国だけでも相当な数にあがる。攻撃予告があり、ワクチンも開発され無料提供されていたが一挙に蔓延した。現在、私のパソコンには、本校の情報処理センターから、「Virus Alert : have detected a virus (WORM-SOBIG.F) in your mail traffic on ... with an action quarantined」などのメールが毎日大量に送られてきている。幸い本校では情報処理センターの対策のおかげで今のところこのウイルスへの感染被害は発生していない。

他人の不幸は自分の幸せ、他人が苦しむのを見てひそかにたのしむ人がいるのは悲しいが、そのような愉快犯、偏執狂、マニアがいるのが現実である。コンピューター社会はもはや後戻りできない。だからこの頭脳ゲーム・頭脳戦に負けるわけにはいかない。